

ビジネスマッチングイベントが相次いで再開（タイ） ～日本企業も積極的に参加しています～

東南アジア各国では、新型コロナウイルス感染症対策の各種規制の緩和が進んでいますが、その中でもタイでは、海外との人の往来や、経済活動の回復に向けた規制緩和に、いち早く、積極的に取り組んでいます。

これまで開催が見送られたり、内容が縮小されてきたビジネスマッチングイベントも、コロナ禍以前と同内容で立て続けに開催されており、日本企業の参加・出展も相次いでいます。

◆ 総合食品見本市「THAIFEX」（タイフェックス）

2022年5月24日～28日、バンコク郊外のコンベンションセンター「IMPACT」で、タイ最大規模の総合食品見本市「THAIFEX」（タイフェックス）が開催されました。このイベントは、東南アジア地域で最大級の食品見本市として有名ですが、過去2年間は、規模を大幅に縮小して開催されていました。

今回は、36カ国・地域から、コロナ禍以前の約7割に相当する約1,600社が出展しましたが、海外の食材や業者との新たな接点を待ち望んでいた多くの来場者で、会場は連日賑わいました。



会場内の様子

また、JETROが3年ぶりに設置した「ジャパンパビリオン」では、タイ市場、更にはアジア市場全体への販路拡大を目指す日系企業18社が出展し、日本産食品の魅力をPRしていました。タイで人気の高い日本産の水産物をはじめ、タイ向け輸出が伸びている和牛や茶、加工食品、健康食品等多彩な商品が出品されており、来場したバイヤーとの商談が行われていました。



ジャパンパビリオンの様子



宮城県産の牡蠣も出品されていました

◆ 日系企業向け「日タイビジネス商談会」

2022年5月23日、バンコク郊外のコンベンションセンター「BITEC」で、「第14回 日タイビジネス商談会」が開催されました。当行を含む日本の金融機関が共催して多数の日系企業が出展することから、日系企業間はもちろん、来場するタイ企業との商談機会としても、現地で定着している商談会です。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催が見送られましたが、今年はTHAIFEXとほぼ同じく、コロナ禍以前の約7割にあたる264社/563名が参加し、1,200件以上の商談が行われました。



会場内の様子



ブースでの個別商談風景

◆ 再認識された「リアル商談の重要性」

ここ数年、コロナ禍の影響を最小限にするために、オンラインを活用したビジネスマッチングや商談機会の活用が広く普及しました。特に海外ビジネスにおいては、海外への移動に伴う「時間」「費用」「リスク」が軽減できるという大きなメリットもあり、多くの企業がオンラインを活用した海外ビジネスに取り組んでいます。

しかし、今回ご紹介したイベント会場で伺った出展者の方々からは、「新たな商談相手を探し、関係を深めていくためには、画面越しのオンライン面談だけでは効果が上げにくい」、「現地のトレンドを直接見聞きし、自社商品の感想等の生の声を聴くことができ、現地にリアル商談の重要性を再確認した」といった感想が多く聞かれました。

今回のイベントには、5月からの渡航規制緩和を受けて、日本からの出張により参加された方も多くおられました。コロナ禍を経て手に入れた「オンライン活用の効率性」と、「リアル商談の重要性」をよく考慮して、狙いを明確にした商談機会の選択を行っていくことが、アフターコロナの時代に必要な海外ビジネスの姿とを感じる機会になりました。

(タイ・バンコク駐在 新妻 孝則)

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。